

COOP

京都の生協

●1997●NOVEMBER●NO 34

発行 ●京都府生活協同組合連合会

〒604 京都市中京区烏丸夷川東南角 せいきょう会館2F
TEL.075-251-1551 FAX.075-251-1555

C/O/N/T/E/N/T/S

特集 よりよい商品をめざして

対談 ネットワークNOW	-----	2
●綾部酪農農業協同組合組合長	朝子 栄さん	
●京都生活協同組合理事長	末川 千穂子さん	
●生協らしさの実感創出	-----	6
京都生協、大学生協、あみの生協の取り組み		
●京都の畜産物	-----	10
●生協への期待	-----	12
●京都商工会議所専務理事	小堀 脩さん	
●TOPICS	-----	14
●今年の平和の活動	-----	16
●COP3に向けて	-----	17
●京都の生協紹介	-----	18
●探訪 淀高原総合牧場	-----	24
畜産研究所		



ネットワークNOW

私達の食べ物（商品）は、消費の多様化や高齢化の進行等に伴い多様化してきている。規制緩和、国際化の名のもとに進む、添加物や農薬の基準の緩和、又、遺伝子組換え食品の輸入と拡大も進んでいる。

組合員の新たな食べ物への不安が高まっている中で、今、生協商品の存在意義や生協らしさが求められている。変化する時代の中で、組合員、職員の知恵と力、生産者、メーカー、取引先との強力、協同の力を結集して、21世紀に向かって新たな生協らしさの追求や、組合員の願いの実現への取り組みがはじまっている。

環境にもやさしく、安全、安心な商品づくりが地域社会との協同の中ではじまってきている。

「京都の生協」は再生紙を使用しています。

よりよい商品をめざして

— 生協の産直・安全・安心な商品づくり —

「自由、貿易体制の維持・強化」のもとにおこなわれたガットウルグアイ・ラウンド農業合意（93年）や95年の新食糧法の施行など日本の農業、食へ物をめぐる環境は、大きな転換の時代を迎えている。

また、地球温暖化防止京都会議（COP3）の開催を間近に控え、環境保全型農業のあり方もとわれている。今回は、京都の生協の産直牛乳の生みの親である綾部酪農業協同組合の朝子栄組合長（京都府産直協議会会長、京都生協虹の会会長）に、生産現場が抱えている悩みや問題、産直運動の現状と課題、これからの農業のあり方などについて聞いた。

京都府内で産直第1号となったコープ牛乳（1973年開発）のふるさと、綾部市・ふれあい牧場で、21世紀に向かって消費者と生産者が力を合わせて進めていく、これからの安全、安心な産直活動や商品づくりについて話していただきました。



あさこ 朝子 さかえ 栄さん

1980年4月 綾部酪農業協同組合・組合長
1981年6月 日本酪農政治連盟中央委員
1984年6月 京都府ミルクプラント事業組合・組合長
1985年6月 京都府酪農業協同組合連合会・組合長
1989年6月 全国酪農協会理事
1997年6月 日本ホルスタイン登録協会理事
5月 京都生協・虹の会・会長
京都府流通協議会会長

今あらためて産直当初の

「安全・安心」の思いが

末川 初めに、朝子組合長と京都の生協との出会いの頃のお話をお聞かせください。

朝子 一九七二（昭和四七）年、当時はま

だ洛南生協でしたが、成分無調整の牛乳の共同購入をメインとして取り組みたい、特に府内で生産されたものを利用したいということで来られました。最終的に一九七四

年、洛南生協・奈良市民生協との同時開発ということで発足したのが産直牛乳の始まりです。

当時、生協さんの方では、牛乳の利用を条件に班を組織されたくらい重要な位置づけがあったということです。その後組織合同し、京都生協との産直ということとずっと続いています。

末川 高度成長のツケが噴き出したあの頃、子育て中のお母さんたちにとってほんものの牛乳を飲みたいという願いには強いものがありました。コープ牛乳の誕生によ

ネットワーク NOW

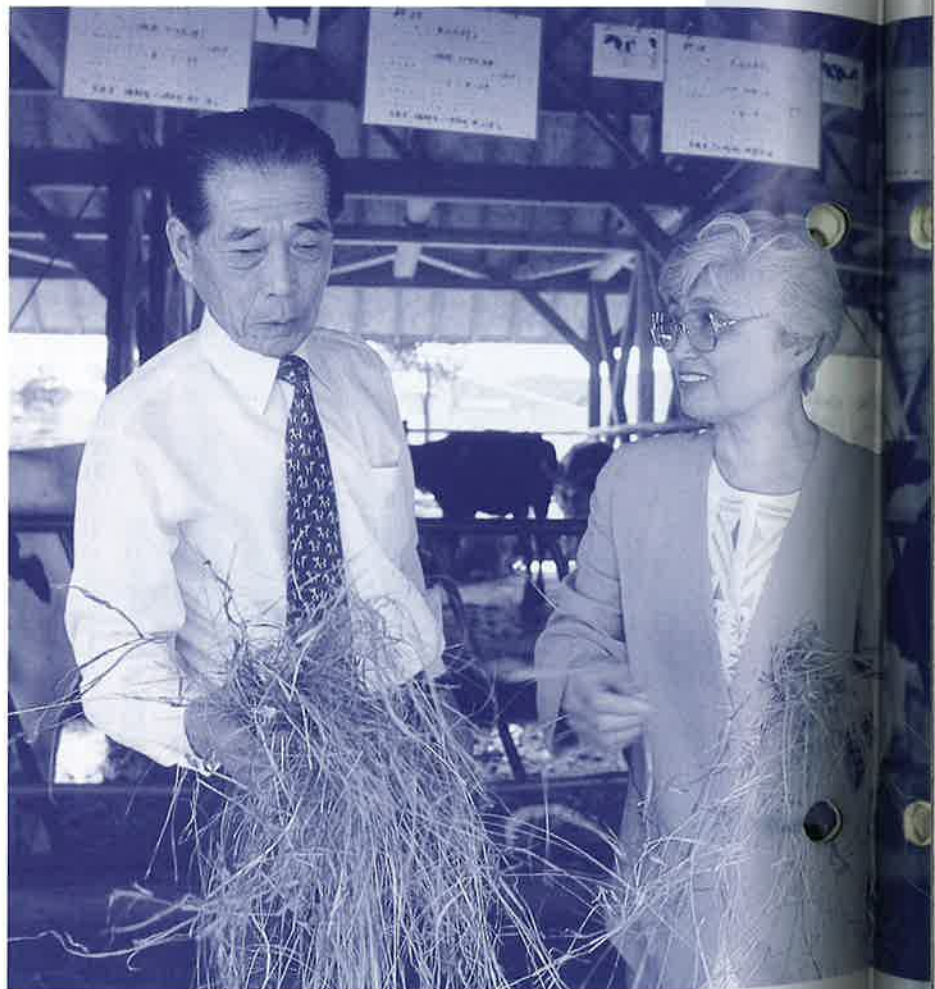
朝子 栄さん

綾部酪農業協同組合 組合長

って、生協自身も大きく広がることができた、そういう出会いだっただと思います。あれから二五年、いろいろなことがありましたね。

朝子 一番の思い出は由良川増水による、工場への水害ですね。私どものところは三回も水害に遭いました。二年続けてやられたこともあります。

そのときに、生協組合員の方々はすぐに応援に駆けつけ、カンパもいただいた。一週間ほど製造停止に追い込まれたときは大山乳業に助けていただきました。あのときの皆さんの励ましは、本当にありがたかったです。これも産直のたまものと感謝しています。



末川 その後、牛乳から野菜などの農産物へと産直も広がりました。

朝子 野菜では、酪農家が堆肥を使って生産した丸大根ですね。朝どりトウモロコシや大豆も…。

末川 トウモロコシの朝もぎ、やりましたね。

朝子 配送も牛乳の配送車を回してもらって、それに丸大根を積んで（笑）。それから徐々に広がっていきました。

しかし、野菜は気象条件によって左右されますし、価格の動きも激しく難しいですね。生協の産直ということになりますと、

ずいぶん早くから価格が決まります。そうすると、生協さんとしては相場は安いのに高く買わなければならなくなるという問題もあったように聞いています。

末川 必ずしも順調に発展・拡大してきたわけではないんですね。いま野菜の輸入がどんどん



ふえています。それはそれなりのメリットもあるなかで、消費者や組合員のところでは「国内産の安心・安全なものを安定的に手に入れたい」という思いが、あらためて強くなっています。

朝子 最近では、スーパーでも成分無調整牛乳や有機栽培野菜を売っています。安心・安全は生協の専売特許ではなくなってきました。そういう時代に、産直の意義をどこに求めるかですね。やはり、地域の生産者と手をつなぐ、地域の産業に何らかの貢献ができるという意味もあるのではないのでしょうか。

生産者としても、受け身ではないかなと思っています。産直のメリットづくりをしなければ、生産農家も「産直は大事だ続けていこう」という気持ちになりません。

1986年5月 京都生協理事に就任
1996年5月 京都生協理事長に就任
現在) 京都生協理事長
京都府生協連副会長
日本生協連
全国女性会議委員

すえかわ 末川 ちほこさん 千穂子

京都でとれたものを京都で食べる

末川 先ほどの丸大根ですが、あれは扱いにくかったです。丸くて大きいので、半分が四分の一に切らないとお店に置きにくい。各産地の野菜、五種類詰め合わせて、共同購入で注文をとるという「京都やさい箱」という企画で、ようやく丸ごと入るようになったんです。去年の冬三回くらい入れていただいて「綾部の丸大根が入ってる」と、組合員は喜びました。黒枝豆「紫ずきん」も好評で、「来年庭にまくんや」言うて、種で残した人もいます（笑）。

朝子 私たちとしても、京都でつくったものは京都で食べてもらいたい、そういう仕組みができればいいなと思っています。

その意味で、産直牛乳が皆さんに喜んでいただけて、私たちの組織も堅実に経営できたことは大きな成果です。この地域の酪農にとって、非常に意味がありました。この形を継続して、私たちが消費者や生協に対してどう貢献ができるのかということも考えていきたいと思っています。

末川 生協も生産者・酪農家のお力になれるような役割を果たしたいと思っています。と言いながらも「あれが欲しい。これが欲しい」と勝手なことも申しますが（笑）。

最近、丹波の特産品を使った新しい商品ができないだろうかと話合っているところ

るところです。きょう、ここへ来ましたら黒豆アイスクリームがありました。あれは、きな粉が入っているんですか？

朝子 皮を除いて、裏ごししたものを混ぜています。粉も少し入れています。この頃は新商品開発ラッシュで、いろんなものを混ぜます。牛乳には鉄分やカルシウムを入れたり、ヨーグルトにもバナナ・アロエ、私はついでにいけません（笑）。本来、あれこれ混ぜないで、本物をそのまま供給したいというのがわれわれの願望ですが、それでは経営が成り立たない昨今です。

村が消えていく…生きる道は地域密着

末川 家計における食費を見ても、素材の支出が減って、外食や加工食品

の額がふえています。消費者の暮らし方の変化なのですが、つくっていただく方は大変だろーうと思います。

ところで、遺伝子組み替え食品が消費者の間で非常に大きな話題と関心になっています。菜種油、大豆、じゃがいも、トマトなど既に十五品目になり、消費者は不安をもっていますが、それに対して、生協の組合員と生産される側がどのように力を合

せていけばいいとお考えですか？

朝子 あまりにもデータがなさ過ぎます。農水省は「おおむね、問題はないだろう」と言っていますが、アメリカの研究だけではなく、日本の研究機関で十分な時間をかけてデータをとり、それに基づいた議論をしないと説得力がないと思います。お互いに、情報を求めていかなければなりませんね。

末川 牛の飼料の自給率が、去年の農業白書では二五%前後になっています。これなども不安なことのひとつですね。

朝子 自給率はもっと下がるでしょうね。北海道の採草地も荒れています。外国から買った方が安上がりだから。しかし輸入に依存すれば、将来も安定して確保できるという保障がありません。食糧輸入と同じで、とても危険です。

それにしても、自給率は下がる。生産農家は減少し、高齢化している――。新聞報道によると、中山間地の農家の集落が二千余りは消えるだろうということでした。京都では十集落くらいが消えるそうです。そういうことが進行していくなかで、農業をどう位置づけるのかということだと思います。

末川 そのあたりと関係があるのかもしれませんが、JAの組織統合が進められてい



ますね。生協からいいますと、合併によって産直が消えた府外の例もあり、新しい対応が求められています。綾部酪農さんはどうでしょうか？

朝子 お誘いはありました。合併によるメリットもそれなりにあると思います。しかし、大きな組織になると組合員の意思が反

環境にやさしい酪農

多様なやり方で未来へ

末川 産直を大事にしてくださって、本当にあり



コープの子供達と動物とのふれあい交流

がたいと思います。私たちとしても、生産者の皆さんとともに京都の農業を育てていきたいと思っています。一方では、京野菜ブランドという形で特産の野菜が東京で高く売られていますね。経済の論理に農業も巻き込まれてしまったような気がしないではありません。

朝子 昔は、一軒の農家が米をつくり、田んぼの周りに豆を植え、麦も野菜もつくっていましたし、牛や鶏も飼っていました。そのことで個々の作物の自給率も保っていたし、循環型農業もできていたわけです。今は米なら米だけ、野菜なら野菜だけ……。モノの生産工場のような農業になってきました。その方が量は確保できるし、価格は安くなるし、消費者の方にとってはいいことかもしれません、それでいいのだろうかと思います。

地域や消費者といっしょに

末川 流通と消費の都合で、生産が不自然な形になっていくのかもしれない

せん。そうすると、酪農のような循環型農業は今日的ですね。環境問題は今避けて通れないテーマですし、COP3も開かれますが……。

朝子 そうなんです。酪農というのは、もともと循環型農業の基本になる産業ではないかと自負しています。土から草をつくって、その草を牛に食べさせて、牛から乳を絞り、堆肥を土に還元する、環境にやさしい農業です。うちでも、牛糞を発酵させて、それを田んぼに返しています。

これからの農業は、ひたすら規模拡大を目指すのではなく、もっと多様なやり方があってもいいのではないかと思います。あの離島の話ですが、島外の学校を卒業した

映しにくいし、産直の意識が薄れてしまいかねないので、当面は合併しない方向です。国の乳業再編政策は、合併による規模拡大で生産性の向上を図るというものです。しかし、地域に密着していると、それなりに生きる道があるんです。中途半端が一番難しい。

若者が後継者として帰っているところもあります。その土地、その時、その状況に合った形があると思うんです。

私たちの場合で言えば、地域や消費者の皆さんと密着した酪農です。ただ単に買ってもらいだけでなく、日本の農業をどうするのかを消費者の皆さんと一緒に考えたい。そんな関係になれたらと思います。経営の安定はもちろんですが（笑）。そんな想いもあって、この「ふれあい牧場」をつくったんです。組合員の皆さんにここで酪農の一端に触れていただき、楽しんで帰っていただければと思います。

末川 ほんとにとっても気持ちのよい牧場ですね。この自然と農業が守れるように、私たちも生産者の方々とより一層手をつないでいきたいと思っています。本日は貴重なお話をありがとうございました。

よりよい商品をめざして

生協らしさの実感創出

問われる生協らしさに答えて――

新たな安全・安心・商品をめざして

京都生協

京都府内産直商品へ
「京のふるさと輪っとコープ商品」広がっています。



組合員の生協利用は、昨年に比べ99・2%（今年4月～7月平均）と大変厳しくなっています。

また、総代会では「商品の生協らしさがなくなった」等、商品や運営面について「生協らしさ」が厳しく問い直されました。一人一人の組合員の暮らしに役立ち、願いを実現し、変化する時代の動きに対応できる商品運動をもつ二度再構築しようとする組合員のくらしや時代の変化に対応する商品づくりを、組合員の声から出発し、組合員、職員、生産者（メーカー）が一緒になった運動がはじまっています。

その1

遺伝子組換え大豆不使用の、豆腐、油揚げなどの商品検討を開始しました

10000人の組合員、職員が参加
秋から「あたらしい商品活動方針」に基づき、コープ商品の開発やリニューアルのための試作品検討を組合員の自主的参加であるメニュー提

商品検討メニューを応募

第一次の商品検討メニューへの応募は、153委員会6459人への投票がありました。第二次、7月度は、147委員会4135人の応募があり、4085人に決まりました。

（第二次検討商品）

検討方法	検討商品名
運営委員会 開催時検討 メニューA	サンマ開き
	遺伝子組み換え大豆不使用の充填豆腐400g（※1）
	遺伝子組み換え大豆不使用の油揚げ1枚（※1）
	塩・白湯・焼き蕎麦・冷やし中華ラーメン各1種類
	和風だし
組合員もち かえり検討 メニューB	ポン酢醤油
	モモ肉から揚げ（延期）
	ビーフコロッケ 70g～80g×5
	遺伝子組み換え大豆不使用の滝川とうふ150g（※1）
	10食ラーメン（しょうゆ・みそ）各1種類
メニューB	ハイブレンドコーヒー
	ソフト煎り丹波黒豆

遺伝子組み換えに対応

遺伝子組み換えをしていない有機大豆を原料にした充填豆腐あげ、瀧川とうふを開発。消費者の知る権利、選択の権利を保障するために開発しました。（12月より供給）





みんな
組合員で
見直した!

「美味しくなったね」食パン。 大きくなって価格すえ置き

「開発当時から不必要な添加物は一切使わない安全・安心の食パン」というコンセプトで17年間親しまれてきたコープ食パンですが、近年の食パンへの嗜好の変化などでこの間利用が落ちていました。

①脱脂粉乳など材料配合と焼き加減の工夫で口溶けの良さとしっとり感を実現。

②食塩を精製塩からミネラル豊富な「赤穂の塩」にかえて味まろやか。

③パンの耳を柔らかくしました。

④パンの大きさをひとまわり大きくしてボリュームアップ。

しかも、お値段は据え置き!まずはシンブルにトーストで、味を確かめてみてください。

案方式でスタートしました。

運営委員会やセンター(店舗)委員会をはじめ、職員組織を含め96年度末まで9000人の参加がありました。今年度は、半年ですでに7000人の参加で商品検討が進んでいます。

昨年までは日生協コープ商品の開発やリニューアル検討を多くすすめ、「日生協コープ商品開発にも参加できる」実感が広がりました。今年度は京都生協コープ商品開発を80品目余り予定しており、そのほとんどをこの「商品検討メニュー提案」方式ですすめています。

その2

この秋、44品目の新開発、リニューアル商品が続々デビュー

9月末には約1年間、組合員、職員、メーカーと一緒にすすめてきたコープ食パンの全面リニューアル商品が登場。また11月初旬にはコープ商品第1号の「コープしょうゆ」をベースにした「ゆずポン酢」と「四季の和風だし」が登場。また「芦別虹つ子米」「美味塩干シ」「リーズサンマ開き」など続々デビューします。このデビューにも組合員、職員、メーカーが一緒になってつくった商品であることのお知らせや学習や普及活動を大切にすすめています。

その3

組合員と職員と一緒にコープ商品総点検(リフレッシュ)運動スタート!

この取り組みは次のような目的をもって、暮らしに役立つコープ商品の実現をめざしています。

・一人ひとりの組合員の声から出発したライフスタイルや価値観の変化に対応した商品づくり。

・組合員・職員・生産者とメーカーがいつしょになってすすめる、あたらしい関係づくりをめざす。

・「私たちがつくったコープ商品」という実感をもち、とりくみを通して、あたらしい暮らしづくりを探索していく。

・共同開発商品の開発にも参加できる機会を広げていく。

その4

「わたし達が一生懸命つくった産直品」を生産者と組合員と一緒に商品普及に取り組み

9月1日、2日は鳥取フェアをおこないました。コープ牛乳やコープ牛、コープ豚の生産者30名がみえ、6店舗で組合員センター委員会のみなさんと一緒に商品普及と交流をおこないました。「売場で生産者の顔が見える産直」をテーマに全国の産直生産者が店舗で自分の作った生産物の利用をおすすめしながら、組合員の生の声をきくとりくみをおこなっています。

「生協らしさ」が問われる中、生協ならではの産直の再強化をすすめています。特に売場での表現力強化にポイントをおいて、すすめています。

ます。

また、これからの最重点テーマとして「府内産直の強化」を、京都府産直協議会とともに具体化をすすめています。「京都やさい箱」のとりくみの中で「参加生産者が増えた」「後継者が育った」という生産者の声がはじめたのは嬉しいことです。

98年度は京都生協開発商品のテーマとして「府内の農産物を使ったコープ商品」の開発を検討しています。京都の産品を使い、京都で生産・加工していく「京のふるさと輪」と「コープ商品」にふたたび光をあてていきたいと考えています。



京都生協常務理事

西村 喬

今年の総代会では多くの組合員から「生協らしさ」が問い直されました。そんな組合員の声に応えて「生協らしさの実感創出」を商品分野で推進。これまで共に協力し合ってきたお取引先や生産者、メーカーとの「共同研究」の積み重ねをポイントとした「新しい関係」づくりを進めています。

この秋、組合員と一緒につくったたくさんの京都生協開発商品がデビュー。98年度に向けて「京都府内産直・地場」をテーマにした商品開発を準備中です。

よりよい商品をめざして

組合員ネットワーク広がる

—インターネットを活用して

組合員と生協職員が進める

インターネットを活用して、組合員と生協職員が進める組合員ネットワーク

コンピュータやパソコン通信が社会生活に身近なものとなり、パソコンを購入する家庭が増加しています。大学では情報ネットワ

ークの最先端の場として、研究や教育に大いにネットワークが活用されています。最近では、コンピュータを活用した教育も具体的に進んでおり、多くの大学で教材としてパソコンを利用するようになっていきます。レポート提出や大学からの連絡などが通信を利用し

て行われるなど社会に一步先んじた情報社会の実験が行われています。大学生協では、こうした状況に対応して組合員同士のコミュニケーションを豊かにし、協同組合の新たな事業の可能性を拓くものとして、インターネットを活用した取り組みを急速に推進しています。インターネットは国際的なコンピ

サービを開始しました。京都・滋賀・奈良をはじめとして現在西日本の大学生協のある都市をネットワークで結んで利用できるようにしています。各地の地域生協にもお願いして12の地域生協と共同で組合員への接続サービスを行って既に8000人を超える加入者となっています。これからも全国の大学生協や地域生協に声をかけて全国ネットワークで利用いただけるようにネットワークを拡大していきます。生協インターネットを活用して、全国の組合員同士が生活や福祉を語り合い、より良い生活文化の創造のために知恵と力を寄せあう活動の基盤になる日も遠からず実現するものと考えています。

ューター通信のネットワークで、自宅や研究室のコンピュータが世界中のコンピュータに接続できるようになっています。例えばNASAのコンピュータに接続すると月面や星雲のリアルタイムの画像を見ることが出来るようになっていきます。

インターネットを活用して新しい生活文化の向上を

大学生協では、インターネットを安い接続費用で多くの組合員に利用してもらおうと、インターネットへの接続

生協の未来のインフラ作りを

大学生協では、インターネットを活用した生協の事業開発にも取り組んでいます。前号でご紹介した洋書ばかりでなく、和書の取り扱いも始めました。地域生協の皆さんとも協



大学生協京都事業連合ホームページも開設



地域の食文化を大切に

あみの生協

丹後半島子午線上、丹後ちりめんの町で地域生協らしい商品活動をすすめています。

地元の産業（農・漁）との提携も強めています。

なんと云っても私達の1番の商品は牛乳です。網野地域の酪農家の原乳を平林乳業株で処理したコープ牛乳（65度30分の低温

殺菌）は50%をこえる組合員が利用しています。

生ノ内地区のおばあちゃん達の野菜のとり扱い、「雨が続いて白菜ができない」「天氣が続いてちよっと早くホーレン草ができまし、ようけできたわ」等毎週一回の打ち合わせはかせません。年々協力農家も増えています。

一番の調味料—しょうゆの開発

新式醸造が主流の中、専門部会と地元井上醸造が一緒になってとりくみました。新式醸造と本醸造の違いから、「色は?」「容器はビンでなくポリにしよう?でもポリは便利だけれど高くつくで」「核家族がふえているし、やつぱりポリに」「今まで通り1・8ℓ11升ビンでリサイクルでいいこう」「濃口か淡口かわからへんでキャップとシールをかえてみては」組合員の声をもとに開発できました。もちろんビンのリサイクルはスムーズに展開しています。

地域の催事を大切に

共同購入部会では、地域の催事を大切にしたい企画を進めています。「今年のちりめ

ん祭はいつ?」「かわすそ祭りは何曜日?」「運動会はいつ?」「秋祭りはなんよう日になる?」…「夏祭りはバラ寿司、サバ缶企画」「秋祭りは巻き寿司、ガンギ企画」「運動会には…」と話しがはずみます。その中で「巻き寿司」に欠かせないガンギは丹後独特の商品のひとつです。組合員の力でいい物をつくらうという話になりました。色々意見を出し合い色はピンク一色にしました。できあがった最初は、「なんかウインナーみたい」とビックリした声が上がりました。でも実際つかってみると「卵は黄色、ガンギはピンク、巻いてみたらきれい」と大好評。地域の巻き寿司にはなくてはならない具材料のひとつに育っています。

「煮干」：丹後では日々の料理にかかせません。年1回、夏に煮干のまとめ企画・宅配を取り組んでいます。地元でとれた片口・まぜりを使います。8kg箱と3kg箱です。「わが家ではお中元に使っています」と大好評。郷土商品の「へしこ」も地元で出来たものを扱っています。

今後も組合員のくらしを大切に、「あみのだから」「あみのは」の声を大切にしたい取り組みを進めています。

力して良書を普及して素晴らしい読書文化を作り上げていく活動にもインターネットは大いに役割を果たすものと確信しています。またこれからは、生協のインターネットを活用してボランティア活動や福祉をはじめとする地域での活動のためのコミュニケーションツールを整備することも考えています。

パソコンやインターネットというとか専門的でやっかいなものと思われがちですが、これからは、お年寄りでも子ども達でも簡単に使える便利な道具になることは間違いありません。組合員同士が助け合ってよりよい生活を考えあい作り上げて行くには、やはり組合員同士のコミュニケーションが大切です。大学生協は、こうした生協の未来のインフラを作り上げていくための取り組みを組合員の知恵で更に進めていきたいと考えています。

学生・教職員の新しいニーズ、時代変化を先取りした新しい事業開発に力を入れています。総合リビング事業、インターネットを使った洋書輸入事業、また地域生協との協同連帯の推進も強めていきます。



大学生協京都事業
連合常務理事

金山 昌嗣

京都府からの
レポート

京都の畜産物は

生産者の顔が見え・安全・安心な生産品づくり

全国に先駆け明治5年、府営牧畜場できる

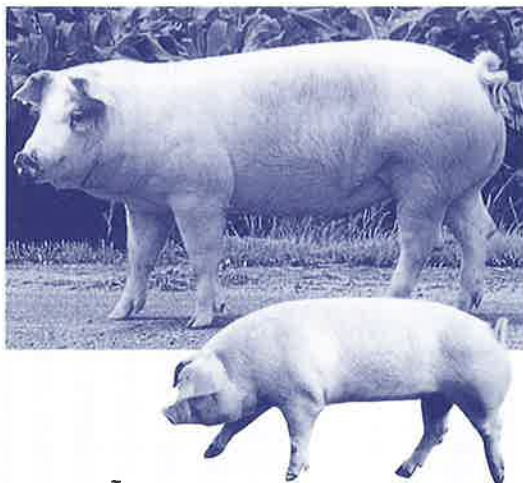
日本では、仏教の伝来とともに肉食が禁止され、牛は専ら農耕用に飼われましたが朝廷の儀式で用いるお供えや皇族・貴族の保健滋養の食べ物として「蘇」(チーズの一種)が限られた場所で生産されていました。

農業としての畜産が西欧からとり入れられたのは明治になってからと言われ、京都府は全国に先駆け明治5年(1872)に愛宕郡吉田村聖護院(現在の京都市上京区川端通り荒神橋付近)の練兵場跡を買収して府営の牧畜場を開設し米国から洋牛デボン種34頭と羊19頭を輸入して家畜の増殖と普及を開始するとともに、明治9年(1876)には船井郡須知村(丹波町)に府農牧学校(現須知高校)を開設し、牧畜事業と農牧教育の充実を図ってきました。

また、明治6年(1873)から12年(1879)まで米国人ウィードを教師として招聘し牧畜場経営と農牧教育の任に当たらせました。これらの施設は「青年よ大志を抱け」で知られるクラークの札幌農学校(現北海道

私たちの食糧はカロリーで、国内自給率四十二%まで落ちてきています。外国からの輸入がふえる中で、京都の畜産品を使った「安全・安心で風土になじんだ「畜産品」づくりがはじまっています。

京都の畜産の歴史と、新しい動き、代表的な畜産品づくりについて京都府農林部・畜産課にレポートしていただきました。



大学)、駒場農学校(現東京大学)とともにわが国農業教育の先駆をなす3大拠点であったものと言われています。

明治中期〜後期には京都市から山城地域にかけて400頭あまりの洋牛が飼育されており、当時の牛乳は薬として珍重され、牧場で搾ったミルクを牧場主が樽に詰め天秤棒でかついで都大路を主として医者に売って歩き、医者は薬の調合にこれを貴重品として使用したそうです。

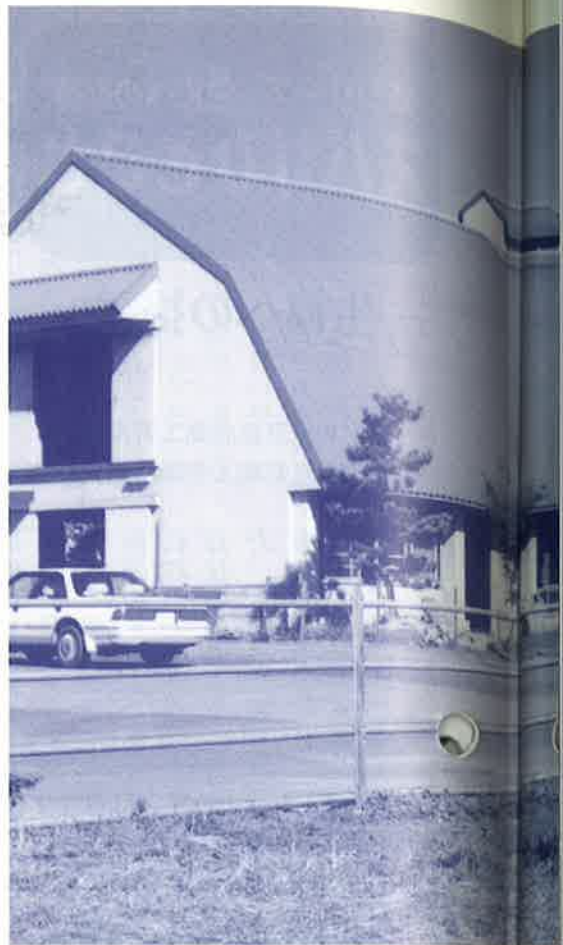


一方、和牛は約1500年前すでに丹後地方などで飼育されていたことが古文書で伝えられています。これらの地方では伝統と恵まれた風土を生かして古くから改良が進められ、宇川牛、筒川牛などの強健で資質の優れた丹波の和牛が作られてきました。

また、牛市も古くから開かれ宮津の葵市（宮津市江尻）は慶応3年（1876）から開設されていたとの記録があり、葵市には三丹の牛が集められ兵庫県の但馬からも良い牛を買いにきて但馬に持ち帰り繁殖に用いたと伝えられており、但馬牛の祖先には京都の和牛の血が混ざっていることが考えられます。

牛市で買われた子牛は役牛として各地で農耕にもちいられましたが、亀岡地方では昭和30年頃から良質な牛肉作りを目的とする和牛肥育が盛んになり、「京都肉」のルーツとなっています。

宇川牛、筒川牛など丹後牛づくり



「伝統と文化の味」京都ブランドの畜産品づくり

今、私たちの生活のなかに数多くの輸入食品が入ってきています。畜産では牛肉・豚肉・鳥肉・羊肉・馬肉・ハム・ソーセージ・チーズ・練乳・脱脂粉乳・液卵などがあります。

最近、国際競争がますます激しさを増すなかで京都府では「京都肉・京都ポーク・京地どり」等畜産物のブランド化に取り組んでいるほか、地域特産物として畜産研究所が開発し綾部酪農農業協同組合（京都生協のCOOP牛乳のふる里です）が商品化をおこなった抹茶入りナチュラルチーズなど、質の高い畜産物の生産を推進しています。

地域の文化、歴史との関わりの中で

食物は国民生活の基本でありそれぞれの地域の文化・歴史とも深い関わりがあります。また、どのような優れた食材を提供できるかはその風土にもよります。歴史と伝統にはぐくまれ、恵まれた風土を生かした京都の畜産品は消費者の皆さんから大変好評を得ています。

輸入物にはない魅力、生産者の顔が見える、安全、安心で、しかも風土になじんだおいしさ。京都ブランドの畜産品で明日の京都の畜産を切り開いていきたいと考えております。

京都の自慢商品紹介



京都の生協組合員にも届いているきゅっとした歯ごたえ「京地どり」

肉質の優れた横斑（おはん）プリモスロウと名古屋コイチンを交配して生まれた雌鳥、鶏のなかでも最高の味といわれているシャモの雄を交配して作られた「京地どり」自然豊かな美山町、峰山町などで、ブロイラーの2倍にあたる約4か月間、平飼いで充分運動させて飼育。脂肪が少なく歯ごたえのあるおいしさが自慢です。



COOP牛乳のふるさと綾部酪農で生れる抹茶チーズ「丹の国浪漫」

綾部市特産物の抹茶をナチュラルチーズに添加する技術を京都府畜産研究所が5年の歳月をかけて研究開発し特許を取得。綾部酪農農業協同組合が商品化に着手し平成9年8月に「丹の国浪漫」の名称で販売を開始しました。今までにないまるやかさが自慢の和風ナチュラルチーズになっています。



育ちの良さが自慢です「京都ぽーく」

本場ドイツ屈指のハム職人の指導をうけて京都の地にふさわしいあつさりとした味わいに仕上げたハムです。素材は肉質や発育の良い3種類の交配豚に大妻を特別に与えて仕上げたやわらかく引き締まった豚肉です。養豚場から加工・販売までの一括管理により、フレッシュなもの。本格派の手づくりハムです。



「京都肉」

朝霧と寒暖の差のある気候風土。清らかな水。そして、古くからの伝統を受け継ぐ飼育技術。このような恵まれた環境で大切に育てられた黒毛和牛のうち、さらに厳しい規格に合格したもの、それだけが京都肉となります。キメの細かい最高の牛肉は「伝統と文化の味、京都肉」となっている。

伝統と文化にはぐくまれた

京都の産品を生協の力で全国に発信を

京都の底流に流れる深い文化・歴史の重み、その中で活動している京都の生協に期待することは……。

京都商工会議所・専務理事 小堀 脩



- 元京都府商工部部長
- 京都商工会議所専務理事

新シリーズ 生協への期待 ズバリひとこと

一生協への提言—



京都は職人の街、生協の力で全国への発信を

京都は職人さんの町で、職人

さんは大変厳しい生活をしておられるというのをご存知のとおりだと思います。何とか生協の皆さんのお力で、全国的にも大変大きな組織でございまして、京都の職人さんたちの技術、商品、そういったものが少しでも日本の国民の皆さんに紹介されるような、手に取っていただけるような、そういうお仕事はできないものでしょうか。また、京都は芸術の町でもあります。京都で技術を磨かれて、芸術を磨かれて成功しておられるかたが全国に多くおられます。日本の文化、伝統を継承発展させていくためには、日本の国民の

皆さんが生活の中でそういった方々と交流をしてみよう、触れ合っていたいくということが極めて大事です。日常の事業活動を通して、生協さんのお力というのがいろんなところで発揮できるのではないかと思います。

生協で職人さんまつりを

例えば「職人さんまつり」を開く、ときどきは職人さんのいろんな商品、もちろん在庫になりかねないような手持ちの商品になるかも知れませんが、そういった商品をさばいていただく「市」のようなものができたらと思います。将来インターネットがもつとものと普及し、インターネットによる商品交換あるいは売買、骨董美術品の「セリ」のようなものをインターネットで生協が主催でできませんかと、いろいろ申し上げてきました。情報化社会

における生活協同組合というのはものすごい武器を持つておられると思います。テレビショッピングなんかも結構はやっていっているようではありますが、その次に来るメディアを通しての販売戦略はやっぱり私はインターネットではないかと思っています。インターネットになると、生協さんが一番得意とする分野ではないかと思っています。日本の国が精神的に豊かになればなるほどに京都というののもっと売り出さなきゃいけないのでありますが、そういう京都を売っていただく組織というのには私は京都の生協をおいてほかにない。ぜひ新しい販売戦略というよりも、日本の国民の皆さんに本

当に生活を楽しんでいただけけるような事業も加えていただきたい、このように思うわけです。バブルがはじけてまた新しい暮らし方・欲望が生れていきます。ここに新しい商品、新しいサービスが生れてもきます。それをうまくつかんだ人がベンチャービジネスとしても成功するし、企業の立て直しもうまくいくし、企業が一回りも二回りも大きくなる、こう云う時代だと思います。例えば、高齢者がふえていく中で、できるだけお年寄りにも楽で、看護する人にも楽なように、何かそういう機械がないかと、高齢化社会にふさわしいいろんな医療器具、介添いの器具など、住まいへの欲望、社交や交際への欲望というのは、余暇生活とも当然かかわ



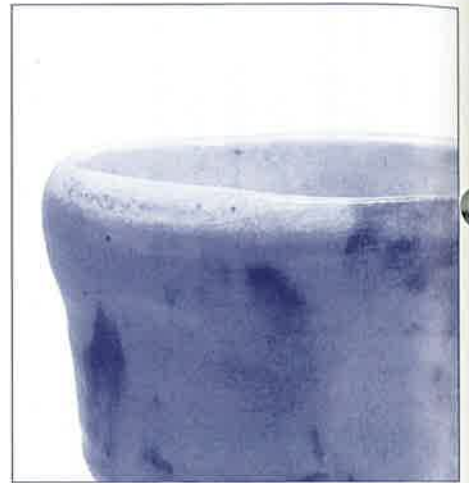
つてまいります。コストが安く、そして家族ぐるみでおつき合いをする、職場ぐるみではなく、家族ぐるみでおつき合いをする、そういう欲望につながる

つていきます。それに関係する企業、商品、技術開発が要求されています。

資本主義社会を前提とする限り、世の中の安定とか幸せとかいったものを責任を持ってきちんと担っていく組織というのは一体何なのかということになります。私はやっぱり資本主義社会を前提とする限り、大切なのが企業なんだと、思っております。

人々の暮らし方を大切にする企業が伸びる

こんな時代だからこそ企業家に対しては厳しい倫理が要求されます。正しい企業行動、もちろん適正な価格、そういうことが一層厳しく要求されると思います。国民の小さな、ささやかな欲望を健全な方向に満たしてくれる企業活動がこれから望まれる。一つ一つの欲望は小さいけれども、人間の幸せ、豊かさの実感、そういったマーケ



ット展開への切り変わりが大切です。大企業に期待するよりも、やはり消費者に近いところで頑張っている企業、あるいは生活の場面にできるだけ近い所で頑張っている伝統産業、地場産業、そういった業界に私はいまこそ期待をしなければいけないのじゃないかなあと、こんな感じを持っています。

京都の資源を大切に事業活動を

京都で縁があつて生活をしたり、あるいは事業活動をしたり、経営をしたという場合に、地域から与えられる資源をもっと大切にしなければいけないと考えています。京都というのは恵まれた資源がいっぱいあります。例えば季節感に恵まれている。季節感も春夏秋冬に加えて、花鳥風月に恵まれた場所でもあります。一月から十二月まではほぼ切れ目なく年中祭行事があります。しかも、その年中行事の幾つかは全国的にも認知される巨大な祭事で



す。京都人というのは京都にどっぷりつかっている人ほど「歴史の重みに感謝を」という気持ちがどうもないのじゃないかなあと思うことがあります。京都の歴史に感謝する気持ちがないから、それを新しい観光だとか、あるいは商品開発に生かすとか、あるいは精神哲学といいますが、子供の教育に生かすとか、そういったことが私はまだ満足にできていないのじゃないかなあと、思います。先祖から与えられた神社仏閣だけを守って観光、集客装置ができるかというところではありません。やっぱり新しい仕掛けはそれなりに要ると思います。例えば源氏物語を新しいテーマ・パークにするとか、千二百年の歴史を題材にどんな切り口があるのか、いろいろ考えることが必要です。

いずれにいたしましても、京都は、文化資源が豊かです。こういった財産を京都の生協の皆さんのお力で日本の国民の皆さんに、何かビジネスとして還元する、そういう文化経営もおやりになつてはどうかと、こんなことを申し上げたいと思います。

これは7月15日に開催された「京都府役職員研修会」での講演の一部です。京都府生協連では講演全体を収録した「講演記録集」をまとめております。

御希望の方は京都府生協連に御連絡下さい。

(電話〇七五―一五―一五五)

TOPICS

『買う人の立場で売場をつくるのですね』 二人の留学生、店舗で トレーニング

京都府庁生協

京都産業大学渡辺先生（経営学部教授）の紹介で、ベトナム、チュニジアから日本に留学してきた二人の留学生が、京都府庁生協・購買部で生協の現場体験学習をしました。

ベトナムから留学してきたフー・ナム・フンさん。一九九五年～九六年、京都大学で日本語を学んだ後、京都産業大学・大学院経済学研究科博士課程でマーケティングを研究中。もう一人はチュニジアから留学してきたファテン・ベンアラブシズさん。一九九六年、京都大学で日本語を学んだ後、フーさんと同じ博士課程で日本の経済構造を研究中。

二人は七月二十二日より九月十日まで京都府庁生協で現場体験トレーニングをしました。府庁生協の井上部長は「五月に改装した我が購買部に、ワーと花が咲いたようです。

商品補充中のフンさん

二人は本当に頭も良く（一度云えばすぐ覚えてしまう）、いきなりレジに入ってもらいましたが、仕事をこなし、本当に活動的で

す。ドンドンわからないことは質問される。自分でやるうとおしみな作業に集中されるので、私達オタオタしています。しかし現場が活気づいています。

組合員も、ガンバッテいるかなーとのぞきにくる人もふえました。

あるフランス語ができる組合員グループは「サテンさんは小学校の時からフランスに留学、フランス語は堪能。美人だし食事に誘おう」とデートの申し込み。（結果はどうなったのか？）。

「日本語の意味も質問され大変です、レジの「休止中」——休んでいるのを何故止めるのですか？」「消費税」——ついやす税を何故消すのですか？」「不足」——足が何故不なのですか？等々」「日本人の私達も？？です。日本語ってむずかしいもんですナー」。

二人の留学生は生協の仕事を通し、色々なことを学ばれたようです。職場のフンイキは「生協の職員の皆さん一人一人が本当に親切です。私達幸せです。色々なことを知りました」。マーケティングを研究されているフンさんは「商品の売場での分類——大分類、中分

類、アイテム構成、シーズン商品のグループニング、商品ディスプレイのやり方は勉強になりました。ベトナムではSM理論、商品分類の考え方はありません。また売場で、商品日付をチェックしながら、古いものを除き、新しいものをドンドン補充し、富豊感を出していくことも知りました。購入者の立場で売場をつくるのですね。オーダーのシステム、物流システムも工夫されている。売場キーピングの要はしっかりと発注・物流システムがあるからなのね」と、基本のところをしつかりつかまれた様です。

最後にフンさんは「ベトナムにはコープがありません。コープはすてきです。ベトナムでも皆さんがお金を出しあい、助け合う組織——コープをつくりたい」と将来への決意を語ってくださいました。



レジ作業中のファテンさん

—京都の協同組合の協同連帯を一層強めていこう— 九七国際協同組合デー—京都集会開催

七月二日、京都府協同組合連絡協議会主催、「97国際協同組合デー京都集会」が、90名の参加のもと京都JA会館で開催されました。

開会にあたり京都府漁業協同組合連合会会長理事白須さんより「一月の重油災害の状況と関係団体へのお礼」が述べられ、「今後京都の協同組合の協同連帯を一層強めていこう」とあいさつをされました。各協同組合より活動報告。

JA京都からは、



記念講演する寺島さん

このプラスチックは塩化ビニルフィルムで占められている。全国的には再生処理が増えている中で、京都では不適切な焼却処理が大半で、早急に適正処理の推進が大切だと指摘。環境が大きな社会問

経済連園芸課長藤田さんより「使用済プラスチックの適正処理について」と題し報告、京野菜生産拡大、施設化推進にともない、園芸用を使用するビニールハウス（施設栽培）の使用済プラスチックが年々増加している。

日々の生活の

安心設計に力をそそいで

—阪神淡路大震災では186億の

見舞金・共済金の支払い—

全京都勤労者共済生協



全労済近畿京都府本部
(全京都勤労者共済生活
協同組合)
専務理事 松本 邦男

四月より自賠責保険の扱い

「こくみん共済」・「ねんきん共済」・「マイカー共済」：等々で馴染みになってきました全労済も、京都の地では、〈全京都勤労者共済生活協同組合〉として発足して以来、本年度で満40年となりました。

いまでは、生命保障、損害保障の両分野のほとんど全てをカバーする共済を取り揃えており、また本年4月より自動車損害賠償責任共済(いわゆる自賠責保険)も取り扱うこととなりました。みなさんの日常生活の安心を設計する共済生協として着実に歩を進めています。

全国のネットワークの力で

全労済は各地域の共済生協を基盤に全国ネットワークを築いており、全国の組合員の協力・支援を基礎とした全国統一組織となっています。2年半前の〈阪神・淡路大震災〉の際にはこの特徴の利点が十分に生かされたと

いえます。全国からの職員が近畿に結集し調査活動等に全力を投入し、見舞金・共済金合わせて186億円の支払いを行い、また、全国の組合員の支援活動参加も得ることができました。

ヘルパー養成の取り組み

高齢化社会問題対策や環境問題対策も活動の重要な柱になっています。毎年、事業剰余の一定割合を、それらの育成・支援のため助成金として寄贈しており、京都においてもすでに多くの団体が活用されています。

また「介護ヘルパー養成講座」の2級・3級課程を実施しており、京都では3級課程を年1回開設し、すでに5回で終了者213名を数えています。そしてこの終了者のうちから多数の方が〈阪神・淡路大震災〉後のボランティア活動に参加いただき、被災者の生活再建に大きな力となっていました。

毎年二〇%の伸張

昨今関心を集めている資金運用も、指導にそった運用に努めて、いわゆる不良債権を抱えることなく健全な運用がなされ契約も毎年20%近い伸長となっていることを最後にあわせて報告させていただきます。

題になっている中で、京都府農業開発ブラステック適正処理推進協議会(事務局、JA経済連園芸課)のもとに地元JAを核にした組織的な回収、適正処理システムをつくりあげつつあることを報告されました。

森林組合からは山城町森林組合組合長木村さんより「森林ボランティアの活動について」と題し報告。山城町の森林公園は、休養施設、キャンプ場、ログハウス、バンガロー、バターゴルフ場等設え、「アウト・ドア・ライフ人間集合」と年々来場者が増えている。この施設を愛し、良くしていくと、単に利用するだけではなく、参加型ボランティアにする活動が広がってきている様子を紹介。

丹後の女の力で名産品づくり

漁業協同組合からは湊漁協婦人部部長和田さんが「京都久美浜港発「カキ佃煮」と題し



報告。「丹後の女の知恵と力をあつめて、丹後の名産品をつくらう」と、何回も何回も試食品をつくり、失敗し、また皆んなで知恵を集め、2年、3年の年月をかけて今日の「カキ佃煮」ができた。取り組みをスライドをつかって報告されました。

生協からは京都生協常任理事東村さんが「日本海重油事故への取り組み」と題し報告。ロシア船籍、ナホトカ号から流れ出た重油が日本海にも漂着、京都生協は、ただちに重油回収作業へのボランティア参加、3万人の組合員が参加した作業資材の提供運動、京都府漁連への支援募金の取り組み、3月からの海産物普及、宣伝キャンペーン等々の報告がされました。

「最近思うこと」と寺島さんが記念講演

京都新聞社・副論説委員長 寺島 晃さんが「最近思うこと、災害、地球環境、そして協同」と題して阪神大震災で示された新しい助け合いのエネルギー、神戸の幼児殺害事件、とマスコミの責任、今日の環境問題を「企業経営の論理ではなく、人間の論理」で考えていくことが大切だと示唆に富んだ講演をいただきました。最後に、京都府森林組合連合会上田会長が「京都の協同組合の力をいっそう合わせていこう」と閉会のあいさつをされました。



白須会長が重油事故救援のお礼



子供や孫達に、 平和で美しい地球を 残してやりたいね。



250人が参加した夏至まつり

一昨年の世界法廷運動

国際司法裁判所の「核兵器による威嚇とその使用は、一般的に人道法に違反する」という勧告的意見に大きな影響をあたえた。これを大きな契機として、国際連合では全ての核兵器をなくするための「核兵器廃止条約」の締結を急ごうとする動きが強まっており、96年12月には、115カ国



今年も平和の取り組み広がる

の賛成でその締結促進をめざす国連総会決議がされました。また、1999年には、第4回国連軍縮特別総会（SSD IV）の開催を求める議決も採択されました。

21世紀を「核兵器のない平和な世界」にするために、

幅の広い市民の行動で平和の世論を広げていこうと今年も京都の市民平和行進が取り組

デコレーション、歌集等も用意し、工夫をこらした行進ができました。共同作業所の仲間達も車いすで参加しました。行進中、沿道での募金活動では18037円が寄せられました。

元気な22名の通し行進者（16生協）にいわえ、京都府内通し行進者として京都生協から青山、有地さんの2名の組合員が参加しました。

ラポールで、核も基地もない沖縄をつくる会「沖縄連帯・夏至祭り」に協賛企画として参加し、基地問題の学習や沖縄の文化を学びました（250名の参加）

広島で核廃絶の気持を新たに

被爆地で事実を学び、被爆の実相を日本の世界の多くの人々に知らせ、伝えていこうと今年も、全国の生協組合員があつまり「日生協・ヒロシマ・ナガサキ行動」（8月4日～9日）が取り組まれました。京都から京都生協、やましろ健康医療生協などから26名が参加しました。爆心地・記念館・資料館をめぐる、当時の様子を聞く等のフィールドワークを通して核兵器の恐ろしさ、また今日、世界の核保有の現実を知り「核廃絶」への気持を新たにしました。

まれました。

7号台風がすぎ去った6月21日、滋賀県から引き継ぎ、6日間にわたり、京都府内を平和への思いをこめて、平和の大切さを市民の皆さんに訴えて行進しました。

6日間でのべ1113人の参加となりました。手作りの横断幕、うちわ、たすき、平和

地球温暖化防止京都会議(COP3)近づくと

今年12月開催される、地球温暖化防止京都会議(COP3)が近づいてきました。この会議は21世紀の地球環境をまもるうえできわめて重要な地球温暖化問題について話し合い、地球温暖化につながる二酸化炭素など「温室効果ガス」の排出量の削減目標を具体的に定める議定書の採択を課題としています。

開催地の京都府生協連としては、今回の会議にむけて結成された日本のNGOのアンブレラ組織・「気候フォーラム」(事務局長・浅岡美恵、事務所・京都市中京区)に結集しながら、会議の成功のために必要なことをとりにくんでいます。

「南」の声をCOP3へ



**途上国の市民・NGO代表
招待経費カンパに
あなたのご協力を**

**地球温暖化防止
京都会議(COP3)
12/1~10 京都で開催**

COP3は、「気候変動に関する国際条約第3回締結国会議」のこと。約160カ国の政府代表と報道機関、NGOなど、5000人が集まります。そして2000年以降の先進国の二酸化炭素など、温室効果ガス排出量の削減目標を国際的に取り決めることとなります。

「1」地球温暖化防止京都会議の日程について

・地球温暖化防止京都会議の日程は12月1日から10日まで、京都国立国際会議場で開催されます。会議参加者は世界の政府関係者、NGO関係者、マスコミ関係者など5000人あまりとされています。

「2」会議開催中の「気候フォーラム」などNGOのイベント等の日程について

・「気候フォーラム」は11月30日に会議前日の行事として国際NGOシンポジウムを開催します。また、この日、京都府役所前や京都市内御池通りあたりではフリーマーケットやミニコンサート、自転車リレーの京都でのゴール集会ももたれる予定です。

・「気候フォーラム」は12月7日午後、COP3の成功を

もとめるNGOの総力を結集した大イベント(二時、平安神宮前よりパレード)を企画中です。

・NGOのイベントは全体として「NGOフォーラム」という枠組みで準備されており、京都市内何ヶ所かでさまざまなイベントが準備されています。

・「イベントカレンダー」も出されています。

「3」COP3成功へむけた運動

(1)学習会などの開催を強めましょう
地域で、環境問題に関心のある団体との共同行事として学習会などを開きましょう。

(2)「南」のNGO代表の招待募金について

・「気候フォーラム」では、今回の会議に地球温暖化の影響を強くうける「南」のNGO代表を60名程度招待したいとしています。そのために必要な経費は3200万円あまりになります。

これを市民のカンパであつめていく運動がはじまっています。

●京都の生協関連のイベント

10月26日	講演会「ミグロの挑戦——地球環境保全にむかって」
11月2日	環境フェスタ97宝池
11月30日	京都生協環境フォーラム
12月1日	コープ地球環境フォーラム (日本生協連との共同企画)
12月2日	宮本憲一講演会「日本の環境政策の展開とCOP3」(同)
12月4日	安斎育郎と京フィルが贈るCOP3記念コンサート「とっておきの地球環境ものがたり」

環境フェスタ97 宝ヶ池

11月2日(日) 雨天の場合は3日(休・月)に順延

午前10時～午後4時まで

京都市左京区「宝ヶ池公園・北園」

(地下鉄「国際会館」駅下車すぐ)

COP3
30日前

自転車・地下鉄で
お越し下さい。

主催：環境フェスタ97宝ヶ池実行委員会／気候フォーラム・京都生活協同組合・京都府生活協同組合連合会等
共催：せいきょう虹の会 協賛：気候フォーラム京都ネット
後援：京都府・京都市・地球温暖化防止京都会議支援実行委員会・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・サンケイ新聞・京都新聞・NHK京都放送局・KBS京都・FM京都・FM伏見・FM宇治など(予定)

We Are COOP

私たちは、京都府生協協同組合連合会です

◆ 19会員の生協紹介 ◆

組合員数

831,737人

京都府内に協同の輪が広がっています

京都の生協の連合体が
京都府生協連です。

京都府
生活協同組合連合会

出資金額 12,449,393 (千円)

供給高 94,538,360 (千円)

(1997年3月末現在)

大学生協

大学の学生・院生・教職員などがつくった生協。書籍・学用品・食品・日用品、リビング・旅行・共済などを主に供給しています。また、大学構内のカフェテリアや食堂などキャンパスライフの福利厚生施設を担っています。インターネット事業も広がっています。

職域生協

職場で働く人々がつくった生協。京都では、京都府内の職員を対象とした京都府庁生協があります。食料品・旅行・保険・日用品の供給をはじめ、食堂・売店などの事業をすすめています。

住宅生協

住みやすい住宅と環境を勤労者に提供するための生協。労働団体や労働金庫などと協力して宅地・住宅の安定供給をめざしています。

共済生協

生命共済、火災共済、交通災害共済など、事故・災害から暮らしと生命を守るための共済事業を扱う生協です。

医療生協

「いつでも、どこでも、だれでも安心して」医療サービスを受けたいという人々の願いから生まれた生協。病院・診療所での医療活動を中心として、福祉サービス活動、保健活動などにも取り組んでいます。

地域生協

地域に居住する消費者を対象とした生協。協同の意志のある人々が広く参加しています。共同購入、店舗・介護用品の店をはじめ、共済・保険・ハウジングなど暮らしに必要な事業が広がっています。地域生協は、今や42万世帯を越えています。

京都大学生協同組合
立命館大学生協同組合
同志社生活協同組合
龍谷大学生協同組合
京都府立医科大・
京都府立大学生生活協同組合
京都教育大学生生活協同組合
京都工芸繊維大学生生活協同組合
京都橘女子学園生活協同組合
池坊学園生活協同組合
京都経済短期大学生生活協同組合
大学生協京都事業連合

京都府庁生活協同組合

京都労働者住宅生活協同組合

全京都勤労者共済生活協同組合

京都医療生活協同組合
乙訓医療生活協同組合
やましろ健康医療生活協同組合

京都生活協同組合
あみの生活協同組合

組合員数：131,000人

9,600人

3,850人

191,000人

75,000人

425,000人

京都大学生生活協同組合

京都大学は今年創立100周年を迎えましたが、京大生協はその約半分（48年）の間、学生・教職員などの組合員によって、自らの生活向上のために運営されてきました。

96年度には、京都大学に在籍する約1000名の留学生の生活向上と国際交流を留学生自身の主体的参加ですすめることを目的として、京大生協留学生委員会が発足しました。新入留学生の歓迎パーティ、スポーツ大会、留学生自身が講師を務める語学教室の運営などの取り組みが広がっています。

最近では、海外書籍（洋書）事業の本格的展開、インターネットを活用した商品供給やプロバイダー事業、印刷事業など新しい分野の取り組みを他の生協とも協同ですすめてきています。また、組合員でアイデアを出し合ってつくりあげたカフェテリア（食堂）のオリジナルパフェは、毎日数百個も利用され話題を呼びました。

「京大生協の環境政策とアクションプログラム」（95年策定）に基づいて、事業系廃棄物削減のための調査や取り組み、リサイクル運動、「環境にやさしい商品の普及」などもすすめています。

所在地
〒606 京都市左京区吉田本町 京都大学内
TEL.075-771-6211 FAX.075-761-0046
理事長 中居文治
専務理事 岡潤一郎
設立年月日 1949年5月25日
組合員数 25,870名
96年度供給高 7,712,128千円



新入留学生歓迎パーティより

京都生活協同組合

1964年「頼もしき隣人たらん」の創立の呼びかけに679人がつどい「京都洛北生活協同組合」が誕生、74年には「京都生活協同組合」に改称しました。また、72年「洛南生活協同組合」が誕生し、両生協は78年に組織合同、今日に至っています。

現在、京都府内98万6000世帯の内42万8000世帯が加入、組織率は43.4%に及びます。

共同購入と店舗での食品を中心とした生活必需品の供給は「安心できる暮らしと環境をつくる生協」としての信頼の輪を広げています。

第33回通常総代会（97年度）では、「楽しく元気にくらしたい…そんな“くらしづくり”」「たすけ合い、思いやりのある街に住み続けたい…そんな“まちづくり”」「私たちの願いがかなう生協に…そんな“生協づくり”」をかねて、くらしをより幅広くカバーする事業を進めるとともに、生活者一人ひとりの声を聴き、これに応え、地域に根ざした民主的運営をもとに、行政や諸団体と手をたづさえ、21世紀へ向けて持続可能な自然環境・社会環境の実現をめざし、活動をすすめています。

所在地
〒601 京都市南区吉祥院石原上川原町1-2
TEL.075-681-1100 FAX.075-681-6849
理事長 末川千穂子
専務理事 門脇馨
設立年月日 1964年11月27日
組合員数 42万8,413名（97年7月20日現在）
96年度供給高 69,078,920千円



立命館大学生生活協同組合

立命館学園では、98年4月に経済・経営両学部が衣笠キャンパスから、現在理工学部のあるBKC（びわこ・くさつキャンパス）に移転し、時代にふさわしい教学づくりをすすめることになっています。学園は西暦2000年に創立100周年を迎えますが、このBKCへの「2学部新展開」は、2000年に大分県別府市に新設される立命館アジア太平洋大学新設とともにおおきな意義を持つ事業と位置づけられています。それは単なる移転でなく、理工系と社系の学部が垣根を越えて有機的に発展することをめざしたものです。

このようななかで、生協は、ショップや大食堂の新設計画をすすめるとともに「ベストユニバーシティ」をめざす学園と組合員の期待にこたえるべくとりくみをすすめています。

所在地
〒603 京都市北区等持院北町56-1
TEL.075-465-8280
FAX.075-463-1393
理事長 二場邦彦
専務理事 酒井克彦
設立年月日 1962年2月15日
組合員数 34,856名
96年度供給高 5,990,250千円



あみの生活協同組合

「平成9年度全国高等学校総合体育大会網野町実行委員会」に委員として、平成9年8月2日～5日に開催された「三笠宮賜杯第44回全国高等学校レスリング選手権大会」には組合員が4日間で10人参加し、運営協力をおこないました。

8月8日、9日、京都府生協連企画「あみの生協交流会」には日本生協連関西地連、大学生協、職域生協、地域生協から30人近い参加者…あみの生協設立にまつわる苦労話や、なぜあみのに生協をつくらなければならなかったか等、あらためて地域生協のあり方に意見・質問があり活発な交流会になりました。

所在地
〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野小字妹73-3
TEL.0772-72-5046
FAX.0772-72-5047
理事長 岡野時夫
専務理事 西村淑子
設立年月日 1983年11月5日
組合員数 2,340名
96年度供給高 321,830千円



京都府立医科大学・府立大学生協同組合

私達の生協は、府立医科大学、医療技術大学部、府立大学、女子短期大学部の2大学、2短大の学生・教職員が組合員となって運営しています。又、附属病院にも生協の店舗があり、患者さん等も生協の組合員になっています。

現在、両大学では21世紀を展望し大学の改革を進めています。府医大では医療の著しい進歩に対応し府内の医学・医療の中核施設として大学施設の整備を計画的に進めています。又、府大では昨年100周年を迎え、学部再編に合わせて短大の4年制への移行を行い、従来の文学部、農学部に加えて福祉社会部と人間環境学部を新設し、今年度から21世紀をめざした新学部体制をスタートさせました。

私たち生協でも懸案であった府立大学食堂のリニューアルオープンを9月に行い、組合員と大学の信頼に応え、協同の輪を更に広げていく決意を新たにしています。

所在地

〒602 京都市上京区河原町広小路堀井町465
TEL.075-251-5952 FAX.075-213-3591

理事長 高松哲郎

専務理事 吹田知久

設立年月日 1959年12月26日

組合員数 8,367人

96年度供給高 1,387,560千円



第97回総代会 97年5月23日
(府立大学合同講義棟において)

同志社生活協同組合

同志社大学生協の前史は、明治33年12月に発足した「同志社消費組合」にまでさかのぼります。当時の「協同組合」は今日の大学生協の最初の姿として歴史の中で紹介されています。戦後は昭和28年に「同志社大学協同組合」として創立され、今日に至るまで40数年の歴史を刻んできました。この中で洛北生協、洛南生協（現京都生協）の設立支援に大きな努力を払うなど地域生協設立支援のパイオニアとしての役割を果たしてきました。

今日、同志社大学をはじめ同志社女子大学、同志社高校、同志社中学の各学校において生協店舗を運営し、広く同志社の学園生活に役立つ生協として、キャンパスアメニティーの充実の為に努力しています。名称も同志社大学消費生活協同組合から同志社生活協同組合へと97年度の総代会で変更を決議し、新たなスタートをすすめています。

所在地

〒602 京都市上京区烏丸今出川上ル玄武町601番地
TEL.075-251-4430

FAX.075-255-3139

理事長 北村日出夫

専務理事 横山治生

設立年月日 1958年8月1日（法人化）

組合員数 27,935名

96年度供給高 4,280,424千円



リニューアルして使いやすくなったと評判の田辺購買部レジ付近

京都教育大学生協同組合

京都教育大学は、教員養成を目的とする大学として歴史を重ねてきましたが、88年に総合科学過程（教員免許なしで卒業できる）、90年に大学院が新設されるなど、大学をめぐる環境が大きく変化しています。

教育大生協は、魅力ある大学づくりに貢献し、学生・教職員の勉学研究を支え、組合員の参加を重視した企画を様々展開しています。

大学と地域の交流の輪を広げようと、教育大生協が事務局となり「京教で京響と第九を歌おう会」の活動を開始。これまで4回のコンサートを成功させてきました。

また、大学と協力して「ヨーロッパ音楽と芸術の旅」などオリジナル旅行を実施しています。

所在地

〒612 京都市伏見区深草藤森町1
TEL.075-641-9281（内692）

FAX.075-643-3313

理事長 沢田誠二

専務理事 末廣恭雄

設立年月日 1964年7月19日

組合員数 2,286名

96年度供給高 340,610千円



（京教で京響と第九を歌おう会）

龍谷大学生協同組合

龍谷大学は358年の伝統（西本願寺の学寮が前身）を持つ大学ですが、現在は文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、短期大学部を擁する総合大学（学生数・19,000人）に発展しています。生協は1966年に設立され創立31周年にあたります。事業内容は食堂、書籍、購買、旅行業、下宿斡旋、共済など組合員の幅広い要望に応えた事業を行っています。店舗は、食堂5店、喫茶3店、レストラン2店、ショップ4店があります。大学も社会も変化する中で生まれてくる組合員の期待と願いを協同の力で実現し続けたいと思っています。

所在地

〒612 京都市伏見区深草西蒲町4-2
TEL.075-642-0213 FAX.075-643-7774

理事長 中村尚司

専務理事 栗飯原利弘

設立年月日 1966年5月10日

組合員数 18,954人

出資金高 2億6,916万円

事業高 2,346,340千円



本年改修竣工した重要文化財の大宮本館（手前の正門も重要文化財指定）

池坊学園生活協同組合

池坊学園生協も1995年の生協設立から2年を経過しました。組合員数800名あまりの小規模な生協ですが、『和と美』を教学理念とする池坊学園のキャンパスライフをより豊かなものにするために日々のとりくみをすすめています。

生協購買部『たんぽぽ』は規模こそ小さいですが、華道や茶道の実習教材の品揃えをはじめ、池坊らしいお店づくりを目標にしています。学生理事を中心とした組合員活動も軌道にのりつつあり、ますます元気な池坊学園生協づくりにトライします。

所在地
〒600 京都市下京区新町通四条下ル鶏鉾町491
TEL.075-352-4348
FAX.075-352-4349
理事長 松岡由起子
専務理事 酒井克彦
設立年月日 1995年6月27日
組合員数 867名
96年度供給高 68,560千円



京都工芸繊維大学生生活協同組合

京都工芸繊維大学は、五山の送り火の一つ「妙法」の山裾に広がる松ヶ崎の地にあり、静寂な近隣住宅街との調和を大切にしたいキャンパスです。地下鉄が大学のすぐそばまで来て、市内や近隣都市圏からのアクセスも大変便利になりました。工芸学部・繊維学部との二つの学部と合計6つの学科で構成される工科系の大学で、年間を通して、また昼夜を問わず勉学研究活動が旺盛に取り組みられ、近年は、大学院の充実もはかられてきました。

生協は、キャンパスの西南部に集中してお店を持ち、研究機器や書籍等勉学研究をささえる商品や、多様化する食生活ニーズに対応した3つの食堂とコンビニエンスショップ、そして便利で役に立つサービスカウンターで組合員の生活全般をサポートしています。

「組合員の知恵と力をお店と商品に生かそう」を合い言葉に、組合員と共に考え、活動し、実現実感を大切にする運営を基盤に諸活動を取り組んでおります。

所在地
〒606 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
TEL.075-781-5359 FAX.075-702-3347
理事長 濱崎實
専務理事 今岡徹
設立年月日 1971年5月20日
組合員数 4,730名
96年度供給高 727,264千円



京都経済短期大学生生活協同組合

京都経済短期大学生協は、組合員数400名ほどの、おそらく京都では一番小さな大学生協として、1996年1月に設立いたしました。

設立当時には食堂もなく、購買店舗のみの営業でしたが、京都経済短期大学の協力のもと、カフェテリアを拡張して同年の7月に食堂の営業を開始することができました。

設立時ならびに設立後も、大学生協京都事業連合、同志社大学生協、その他各方面の御協力、ご指導のもとようやく1事業年度を経て、去る1997年5月27日に総会を開催し、初めて決算報告を行いました。残念ながら赤字でのスタートとなりましたが、気持ちも新たにこの生協をもち立てて頑張っていこうと思いますのでよろしくお願い致します。

所在地
〒610-11 京都市西京区大枝東長町3-1
TEL 075-331-3159
FAX 075-331-3330
理事長 横川 砂和子
専務理事 下村 泰彦
設立年月日 1996年1月18日
組合員数 406名(1997年5月27日現在)
96年度供給高 48,790千円



京都橘女子学園生活協同組合

地下鉄東西線の柳辻駅を出て、西へ歩くこと約15分の山の上にわが生協があります。もっとも大学構内に山科駅からの路線バスの停留所もあって、その方が便利ですが。

学内でパンストや生理用品も買えないのは辛いと言うことで、生協が設立され早くも20年が経ってしまいました。今年はその歴史を振り返って、心温まるお祝いをしようと計画しています。

事業面では、お店を良くする活動を強めたいという事で、組合員が選ぶ本の棚、お菓子の棚、文具の棚を作ったりしています。実際に取引先やよそのお店を探検して、みんなで選んでくるのです。それから健康安全の取り組みにも力を入れています。骨密度測定を行って、お医者さんのアドバイス付きの結果を組合員に返したりしています。

さて、これからは特に地球温暖化の問題についてやれることはどんどん実施していきたいと考えています。がんばりましょう！

所在地
〒607 京都市山科区大宅山田町34番地
TEL.075-571-2325 FAX.075-571-2626
理事長 梅本裕
専務理事 大塚正文
設立年月日 1977年12月14日
組合員数 2,237人
96年度供給高 281,626千円



写真は骨密度測定の様子

京都府庁生活協同組合

1972年に大学生協の支援のもとに設立。結成時は組合員数1,300人、事業供給高2,600万円でしたが、現在では9,600人、19.5億円に達し、京都府職員の福利構成の一端を担うとともに府民向け窓口業務のサービスも行っています。

平和・環境・健康・福祉をキーワードに府職員のあらゆる生活場面に役に立つ事業展開と生協利用の機会の多い郡部組合員に生協まつりの開催、カタログ事業に力を入れてサービス向上に努めています。

11月開催の生協まつりは、京都生協にも呼びかけて両生協組合員3,000人規模の連帯の「まつり」に取り組んでいます。

また、全国の都道府県庁生協、職域生協と交流の輪をひろげる運動も進めています。

所在地
〒602 京都市上京区下立売新町西入京都府庁内
TEL.075-441-7657
FAX.075-441-2686
理事長 國府秀雄
専務理事 小川正
設立年月日 1972年1月25日
組合員数 9,638人
96年度供給高 1,953,986千円



京都医療生活協同組合

京都医療生活協同組合は“中野眼科”で知られる眼科診療所を4カ所開設しています。一般眼科診療のほか、レーザーを活用した手術と治療など高度な診療も行っています。特に、高齢者に多い白内障の手術が日帰りのできることで喜ばれています。

コンタクトレンズの研究と処方では、40年の経験があり、(株)京都コンタクトレンズと提携して市民の豊かな視生活に後見しています。

毎年秋には組合員と高齢者の無料眼科健診を行い、目の健康を守るとともに、眼科健診の大切さを理解してもらう機会としています。

1990年に高齢者の自主的な健康づくりサークルとして発足した「百まで生きよう会」は、多くの高齢者の共感を得て大きく成長し、楽しい活動を発展させています。

所在地
〒604 京都市中京区河原町通三条上る恵比寿町427
京都朝日会館7階
TEL.075-251-0130 FAX.075-213-4607
理事長 中野信夫
専務理事 田中弘
設立年月日 1950年4月25日
組合員数 68,359名
96年度医療事業高 1,623,395千円



大学生協京都事業連合

大学生協京都事業連合は京都大学、同志社大学、京都府立大学・府立医科大学の3生協が、食堂の食材を協同で仕入れするために1961年に「京都ブロック」を設立したことに端を発しています。71年には法人格を取得し、同時に名称を現在の「京都事業連合」と改めました。90年には事業エリアも京都・滋賀・奈良の3府県に広がり、会員数も12会員に増えました。91年には中四事業連合との事業提携を行いました。京都事業連合の役割は、事業や経理管理業務を集中し、専門化することによってそれぞれの会員で行っていた業務レベルを飛躍的に向上させ、会員の規模や力量の格差を克服して、底上げをはかることにあります。

商品の共同仕入れや開発、毎月の商品企画などは京都事業連合の重要な役割です。このことによって、大学生協の組合員が規模に関わりなく同じレベルのサービスを受けることが出来ることを追求しています。

また、会員と京都事業連合をオンラインでつなぎ商品の発注から納品、決算書作成まで一貫したシステムで運営されています。

京都生協との協同で開始したユニコン倶楽部を初めとするカタログ事業、また、96年10月からは大学生協で、はじめてのインターネットプロバイダー事業、このインターネットを使って海外との直接取り引きを行い、安価で迅速に入荷する洋書事業の開始など、新しい事業領域にチャレンジをしてきました。総合リビング事業は、新入生をはじめとし、組合員へ『良質で安価な住居の提供』を進めています。

また、96年には奈良工業高等専門学校、樟蔭女子短期大学などに生協が設立され、まもなく20会員に到達しようとしています。京都事業連合は会員生協とともに設立支援の活動を重視しています。

所在地
京都市左京区高野玉岡町23番地の3
TEL.075-711-1115
理事長 木原正雄
専務理事 長義一
設立年月日 1971年4月30日(法人取得)
会員数 18会員
組合員数 13万8,056人(1997年2月現在)
出資高 4億120万円(1997年2月現在)
事業高 2,453,710千円(1997年2月現在)



全京都勤労者共済生活協同組合

私どもは、京都付認可の共済事業を行う生活協同組合です。勤労者のくらしと財産を守ることを目的に1957年に設立されました。

76年には、全国組織統合が実現し、全労済という日本最大の共済センターとなりました。

組合員1320万人の暮らしの総合保障プラントして“火災共済”“こくみん共済”“交通災害共済”をはじめ“ねんきん共済”“終身共済”“マイカー共済”などの生涯保障制度の提供を行っています。

また、1997年4月には、国家保険でもある“自賠責共済”の取り扱い業務を開始し、より一層社会的役割を担うこととなりました。

—みんながひとりを、ひとりがみんなを—
全労済は、この助け合いの心を事業の基本精神として、より豊かで、安心できる社会づくりをめざしています。

所在地
〒604 京都市中京区壬生仙念町30-2ラ・ボール京都7F
TEL.075-801-8107
FAX.075-841-7805
理事長 井上正夫
専務理事 松本邦男
設立年月日 1957年10月5日
組合員数 192,276名

新しい、
安心づくり。



全労済

やましろ健康医療生活協同組合

京都府の南部、南山城地域は、平等院に代表させる歴史的な地域であると同時に、“山城国一揆”や戦前の治安維持法に命をかけ反対を貫いた山本宣治代議士を生み出した自由・民主・平和を望む伝統の地でもあります。こうした地で、やましろ健康医療生活協同組合は94年2月に設立しました。

94年9月には、「あさくら診療所」を開設。開設当初より、検査結果や処方内容、疾患管理病名などを記入できる、「健康日記」や薬効や副作用を説明した“お薬説明書”などを活用しています。

在宅分野でも、開設1年後には40名を超える患者となり、96年8月より老人デイ・ケアをはじめました。月一回の「在宅患者の集い」や「食事の会」も多くの組合員さんの参加で取り組んでいます。

これまで2回おこなった「健康まつり」も1000名を上回る参加者で、地域の行事として定着しつつあります。

所在地
〒611 宇治市大久保町山ノ内19-1
TEL.0774-46-5151 FAX.0774-46-5201
E-mail yamashiro@ma2.seikyoku.ne.jp
理事長 森川 隆
専務理事 行松 龍美
設立年月日 1994年2月23日
組合員数 3,158名(8月末現在)
96年度医業収益 178,385千円



京都労働者住宅生活協同組合

京都労働者住宅生活協同組合（略称：京都住宅生協）は、特殊法人・日本労働者住宅協会の業務委託団体であり、昭和41年に当時の総評、同盟ならびに労働者福祉協議会、労働金庫、労災等々の諸団体のご協力のもとに設立されました。

「働く人々に、より良い住まいを、より求めやすく」をモットーに、平成8年2月には創立30周年を迎えました。今日までに、約4,200余戸の勤労者住宅を京都府下一円を中心として建設、供給して参りました。

所在地
〒604 京都市中京区壬生仙念町30-2ラ・ボール京都8F
TEL.075-801-5121
FAX.075-801-5124
理事長 岩本致二
設立年月日 1966年2月26日
組合員数 3,843名



乙訓医療生活協同組合

乙訓医療生活協同組合は、京都府向日市を中心に長岡京市、大山崎町、そして京都市西京区、南区、伏見区を定款地域にして活動を始めて13年目を迎えました。

「いつまでも健康でこの街で長生きしたい」「いざという時に安心できる医療機関を」との願いに応えた健康づくりの活動と医療活動を地域で進めてきました。特に往診や訪問看護、老人デイケアの在宅医療活動は、地域の切実な要求に応えた活動として喜ばれています。また医療改悪をはじめ、社会保障制度の総改悪が押し進められようとするなか、安心して住み続けられる街づくりも大切にし、地域社会保障推進協議会と力を合わせて自治体への要請活動などにも積極的に取り組んでいます。

所在地
〒617 京都府向日市寺戸町殿長37-1
TEL.075-922-2800
FAX.075-921-0667
理事長 蔡東隆
専務理事 檀上博明
設立年月日 1984年9月9日
組合員数 3,484名
96年度医療事業高 306,449千円



探

訪

京都府畜産研究所



昭和3年(1928)京都府立農事試験場家きん部として京都市左京区下鴨半木町に開設されました。昭和10年(1935)何鹿郡以久田村(現在地)に設置された京都府種羊場が昭和22年(1947)に京都府丹波種畜場が昭和22年(1947)に京都府丹波種畜場に改められ昭和37年(1962)家きん部門を総合し昭和55年に現在の京都府畜産研究所として発足しました。

畜産研究所は庶務部、大家畜部、中小家畜部からなり、大家畜部では酪農及び肉用牛農家の経営安定のための牛の改良・増殖、飼養管理技術、飼料作物などに関する試験研究とその成果の普及・指導を、中小家畜部では養豚及び養鶏農家の経営安定のための豚・鶏の改良・増殖、飼養管理技術、生産物の品質、畜産経営環境保全などに関する試験研究とその成果の普及・指導に取り組んでいます。

●飼養家畜

乳牛	45頭	肉用種雄牛	9頭
豚	139頭	鶏	3,871羽

GUIDE

〒623-02 京都府綾部市位田町松前
京都府畜産研究所
TEL. 0773-47-0301
●交通案内 JR綾部駅から5.5km
近畿自動車道綾部I.C.から6.5km



GUIDE

〒627-02 京都府竹野郡丹波町碓1
京都府碓高原総合牧場
TEL. 0772-76-1121

●交通案内 北近畿タンゴ鉄道峰山駅より
車で40分



京都府碓高原総合牧場

明治5年(1872)愛宕郡吉田村聖護院(現京都市左京区川端荒神橋付近)に京都牧畜場として開設されました。その後、明治39年(1906)船井郡高原村に設置された京都府立種畜場の出張所が大正年(1913)与謝郡筒川村に開設され、昭和22年(1947)京都府丹波種畜場として改組された後、昭和54年丹波町碓に京都府碓高原総合牧場として開場されました。

碓高原総合牧場は総務部、家畜部、草地部からなり以下の業務を行っています。

- 1 家畜及び自給飼料に関する試験研究とその成果の普及指導
- 2 家畜(肉用牛・乳用牛・めん山羊)の改良増殖・育成並びに譲渡
- 3 ふれあい広場の維持・運営

●飼養家畜

肉用牛	176頭
乳用育成牛	25頭
めん山羊	32頭
ミニチュアホース	3頭
兎さぎ	4羽
水鳥	15羽